

発電所だより

10月号

平成25年10月発行 東北電力株女川原子力発電所総務部広報グループ 女川町塚浜字前田1 電話0225-53-3111 原子力の情報をホームページで公開しています。 <http://www.tohoku-epco.co.jp/>

《私たち こんな仕事をしています》

女川原子力発電所では、現在、定期検査や各種安全対策工事などを行っており、協力企業の皆さんも含めると約2,000人（このうち東北電力社員は約500人）の関係者が働いています。「発電所だより」では、発電所で働く所員を通して女川原子力発電所の「今」を紹介していきます（随時掲載）。

第1回目は、防潮堤のかさ上げ工事を担当している土木建築部 土木建築グループ（土木チーム）の登場です。



土木建築部 土木建築グループ (土木チーム)

防潮堤のかさ上げ工事をはじめとする安全対策工事や女川町と一部を共有している水道設備、発電所内の土木設備の維持管理等を担当。

なぜ、かさ上げすることに？

東日本大震災時、女川原子力発電所には約13mの津波が押し寄せましたが、敷地の高さを乗り越えて敷地内に浸水することはありませんでした。

しかしながら、平成24年4月には、津波への対応強化のため、約3mの防潮堤を設置しました。

今回、発電所の安全性をさらに高めるため、平成28年3月までに、防潮堤を海拔約29mまでかさ上げします。

防潮堤のかさ上げ工事を行っている のことですが。

今年5月に工事を開始し、現在は、地盤改良などを行っています。年明けからは鋼管杭の打設なども始まる予定です。

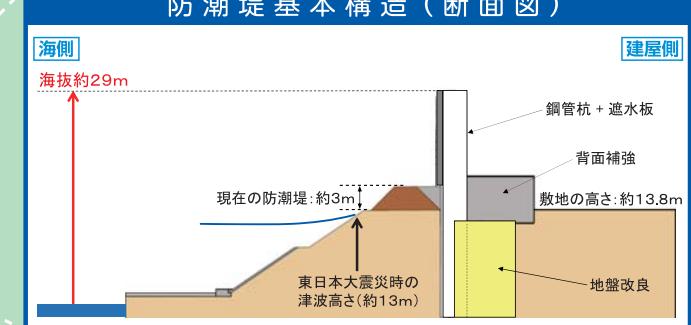
1日も早い完成を目指し、協力企業と一緒に安全最優先で工事を進めています。



防潮堤完成予想図



防潮堤基本構造（断面図）



安全に工事を進めるためには リフレッシュも必要ですよね。

土木というと体力勝負といったイメージがありますが、やはりみんな体を使うことが大好きで、余暇には、ツーリング、クライミング、サッカー、卓球や釣りなどを楽しんでいます。

もちろん、本業でも技術力アップのため各種公的資格取得を目指し頑張っています。

気力、体力とも充実させ、国内最大級の防潮堤の完成に向け全力で取り組んでいきます。



▶ 海側から防潮堤（海拔約17m）を望む。防潮堤の背後に鋼管杭が立ち上がり海拔約29mになる予定



▶ 防潮堤の建屋側では地盤改良材を注入する作業が進ちょく中



《「おながわ秋刀魚収穫祭2013」に参加しました》

9月22日、恒例の「おながわ秋刀魚収穫祭2013」（女川魚市場買受人協同組合主催、当発電所も企画・運営に参加）が行われました。

当日は、女川漁港に水揚げされたサンマ4,000匹の炭火焼きやすり身汁3,000杯が振る舞われたほか、郷土芸能やヒーローショー、ゲストによる多彩なステージが繰り広げられ、町内外から訪れた多くの方々で賑わいました。



女川原子力PRセンターからのお知らせ

お気に入りの作品を見つけにいらしてください

～「東北電力图画コンクール」一般投票実施中～

応募総数約5,000作品の中から一次審査を通過した200作品を女川原子力PRセンターに展示し、来館者の皆さんによる一般投票を行っています。

10月27日（日）まで行っておりますので、是非、ご来館ください。



(昨年の展示の模様)

【女川原子力PRセンター】

〒986-2221 牡鹿郡女川町塙浜字前田123

T E L / 0225-53-3410

開館時間／9:30～16:30 (10月21日(月)は休館)

《女川原子力発電所周辺の放射線量は安定しています》

女川原子力発電所周辺の放射線はモニタリングポスト※1やモニタリングステーション※2で測定・監視しており、その測定値は宮城県および当社ホームページで公開しています。

発電所敷地内に設置してあるモニタリングポストの現在の測定値は、最大で0.071マイクロシーベルト／時程度で安定しており、健康に影響を与えるレベルではありません。

モニタリングステーションの測定状況(9/30現在)

モニタリングステーション	女川局	尾浦	寺間局
●宮城県3カ所	0.073	0.048	0.079
○東北電力4カ所			
モニタリングポスト	江島局	小屋取局	寄磯局
○東北電力6カ所	0.071	0.094	0.085
可搬型モニタリングポスト ^{※3}			
■宮城県5カ所			
女川原子力発電所敷地			
袖ノ浜	0.052		
塙浜局	0.096		
大原浜	0.051	0.080	0.102
			PRセンター
			0.056

単位：マイクロシーベルト/時

※1 モニタリングポストは発電所敷地周辺の環境放射線を測定しています。女川原子力発電所の敷地境界には6基のモニタリングポストが設置されており、その最小値と最大値について、東北地方太平洋沖地震の発生日の値、それ以後で最大値が測定された日（平成23年3月13日）の値、至近6ヶ月の値を掲載しています。

※2 モニタリングステーションは環境放射線に加えて気象データを測定しています。

※3 宮城県では、震災により測定不能となっているモニタリングステーションの代替として、可搬型モニタリングポストによる測定を行っています。

※4 東京電力福島第一原子力発電所からの放射性物質の放出に伴い測定されたもので、測定された時間は約10分間です。

モニタリングポストの最小値と最大値

平成23年	3月11日	0.027～0.064
	3月13日	1.8～21 ^{※4}
	4月1日	0.055～0.076
	5月1日	0.053～0.074
	6月1日	0.052～0.073
	7月1日	0.051～0.071
	8月1日	0.048～0.076
	9月1日	0.051～0.078
平成25年	9月30日	0.051～0.071

単位：マイクロシーベルト/時